

「ママさんにお金くれんの？」



お金目的だったのに

気持ち良いセックスを身体に覚えさせられて

最後には自らおじさんチポ求めるようになったちゃう

白ギャルちゃんといっしょ



ネットで『おじさん募集』をしていた彼女に声をかけた
もちろんおじさんとはセックスの見返りにお金をくれる人のこと



こちらはメールで金額を伝えてOKだったら会ってもらえる
特殊なプレイなどの要望の有無についても答えてくれるが
この子の場合は「お金によるけどだいたいのは大丈夫」と書いてた

「ちよつといいかな、君がおじさん募集してた子だよね」
「・・・そうだけど、じゃあおじさんが○○さんって事でいいんだよね
メール見たけどマジであんなくれるの？」



サイトの写真で見た通り・・・いやそれ以上に可愛い
今日はアタリだな

「可愛かったから追加でこれくらい出すよ」
「ふーん、褒めても何も出ないけど追加分はサービスするかも」
「期待してるよ」



「つてかさ、寒いからいっかいファミレス入らない？」
「いいよ・・・あっ、さっそくで悪いけど」
「なに？」

ファミレスで
「今履いてるパンツを使って手コキして」とお願いした
「おじさんこういうの好きなんだ、変わってるねえ」

?

めっちゃ喜んでる
ちよつと私にはわからないかな





ゴゴゴ

ヒョヒョヒョ

ヒョヒョヒョ

うわっすごい出てる・・・こんな出す人初めて見た

ビュ~~~~~

じー！

キュッ

ぐゅ

「ふう気持ち良かったよ」

「それは良いんだけどホテル行く前にパンツは買ってね」

「うん」





「おじさん性欲強そうだし一回抜いとく？」

「うん、頼むよ」



「ふう・・ありがとう
ベットに行ったら君もたっぷり
気持ちよくさせるからね」

「私の事は気にしないでいいよ
おじさんが気持ちよくなればそれでいいから
あっ、もちろんゴムつけてね」

「じゃあ君を愛撫してからお願いしようかな」

「?・・・わかった」

(すぐやりたいって感じじゃないのかな?)



シャワーを浴びてからある程度時間が経った

ずっといぢぢられてる。。。このおじさん上手いけどらつまでしてんだる

もう気持ち良いとこまでバレちゃってる。。。あつ。。。また。。。っ！







「気持ち良かった？」
「……まあまあかな」

ベッドに来てからもう5回もイカされた
何が目的なんだろう

カクカク

さらに時間が経ち何度もイカされた後





お腹の下がすっごいじんじりする
ハメてほしい
奥までねじ込んで乱暴にスポスポしてほしい

「カクカク」

「アハハ」

「ピクピク」

「トロトロ……」

「ピクピク」

「カクカク」

「ハハハ」

「そろそろじょうかな
きた……」

「カクカク」





・・・足りない

敏感になってるから少し良いけど
イクには全然足りない
さつきからずっとこんな調子

奥まで挿れてくれれば絶対気持ちよくなれるのに
もっとしてほしいのに・・・



「じゃあどうもさようならね」
えっ。。。。そんな。。。。



「もっとしたいけど」ムが無くなっちゃったからね、残念だなあ」

終わった後
おじさんが余韻を楽しみたいと言ったので
しばらく付き合う事にした



おじさんは私の胸を触りながらずっとしゃべってる
私は一応返事をするけど
話が頭に入ってこない
続きがした

トクッ

胸の触り方もやらしくて上手い
あっ、胸だけでイク……イッ……



「あ……」
イケなかった

ポタッ

違う、わざと手を止めて
イかせてくれなかったんだ
……言わせようとしてる
我慢できないって知ってるから

「さて、飲み物でも持って来ようかな、君は何飲む？」

「……あのさ」

「なんだい」



「お金もらっておいでアレなんだけど、その
もうちよつとしてほしいんだけど・・・」
「ゴム無いよ?」
「.....生でいいから」

カァ~~~~

「うん?」

「うん」

「そっか、じゃあ続きしようね」

「うん.....」

モ~~~~

モ~~~~

ト~~~~

~~~~



生でヤリはじめてからは一切焦らさなかつた  
ただ気持ち良くなる為だけに  
何度も奥を突いてくる

私も私で待ち望んだものをもらい  
ずっと盛った犬みたいで喘いで  
いつのまにか気を失っていた









目を覚ました時にはおじさんは居なかつたが  
約束のお金と手紙が置いてあつた

「今度また続きをしようね」

またこんな事されたら  
普通のセックスに戻れなくなる

•••今度っていつだろう



おじさんから連絡がきて  
忙しいけど会いたいと家に呼ばれた  
お金はいつも通り結構出してくれるらしい  
•••ぶっちゃけお金はもういいんだけど



先日の事を思い出して昨日は眠れなかった

「いらっしゃい、ごめんねどうしても会いたくて」  
「あっうん別にいいけど、あのさ」



「ああもちろんお金は」  
「いやそうじゃなくて・・・ああいや何でもない」

こっちとしては  
おじさんとやりたいだけなんだけど

それはそれとして  
今日は危険目だから  
絶対に生でするのは断らなきゃ  
でも今言うとうエッチしてくれないかもしれないし。。。うーん

。。。



絶対にちゃんと言う

ちゃんと言うけど

その時になっただらでいっか

またおじさんのペースに乗せられて生ハメを許しちゃった  
こんなはずじゃなかったのに



ぷんぷん

ぷんぷん

ぷんぷん

おっおっ♡

おっ♡

言わなきやいけけないのに・・・  
うあ・・・そこすごくキモチイイ・・・

「うっ、そろそろ出そうだ  
このまま中に出してもいいかい？」

「・・・うん・・・大丈夫・・・」

んんん♡







(やっせやっせ...)

(.....次は外に出して言う.....絶対に言う)

ゴッ

ゴッ

ゴッ

ゴッ

ゴッ

ゴッ

〜

はぁ〜♡

はぁ〜♡

〜

数分後







数時間後





トッコ

おユル

ん

おユル  
おユル

おユル

トッコ

おユル

ん



「やだやだ休憩しないでもっとする♡  
もっと♡もっとおじさんとエッチするの♡」

「落ち着いた？」  
「うん……うん……」

（良すぎて我を忘れてたなあ……  
はあ……さっきの自分は忘れたい）  
「飲み物とってくるよ」  
「うん……あれ？」



「ああその写真かい  
未練たらしく飾ってはいるが別れた女性だよ」

「別れたっていうか私の方が捨てられたんだけどね  
焦らし過ぎだと怒って出て行ってしまったよ」

（あー。。。）



「今は独り身で寂しくてね  
君が相手してくれてすごく嬉しいよ」



「ぎゅーん」  
(。。。)

ギュ  
ニ

「あーっ。。。」

「明日も来ちゃうか？」



あーっ























































































